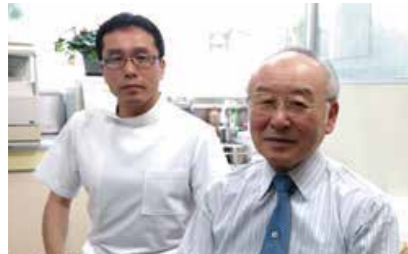


連携医院のご紹介

今回は4月より、中谷玉樹副院長が着任され、中谷一彌院長と共に親子で緩和ケア医療に力を入れられる「中谷外科医院」です。



中谷玉樹副院長と中谷一彌院長

中谷外科医院

〒734-0044
広島市南区西霞町13-27
電話/082-255-1101
院長/中谷一彌
診療科目/外科・消化器内科・緩和ケア科・
整形外科・肛門科



中谷外科医院外観



○いつ開業されましたか。

昭和54年11月に県病院を退職後、12月に南区西霞町に開業しました。県病院勤務時には南区北大河町に住んでいて、近くに黄金山団地やスーパーもあったためこの地に開業しました。

○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

開業して30年以上になりますが当時と今とは大きく違いますね。最初は県病院からの患者さんを中心に診療してきました。それから地域の患者さんも徐々に増えてきました。当時、幼稚園児だった子供がお父さん、お母さんになり、いつのまにか3世代を診ていたり、地域で看取りをした人もいます。外科では往診の教育を受けていなかったため、頼まれたら行くというスタイルでしたが、今は出かけるようになりました。待つ医療ではなく、出かける医療ですね。

○県病院はどんなところで

県病院には7年いたので、私にとって「母なるところ」です。外科医は手術ができることが喜びなので、開業してからも甲状腺などの手術をしていました。

有床診療所だった頃は県病院から医師に来てもらい一緒に手術をして、ここで入院患者さんを診ていました。



手術、病理記録を手書きされた10冊以上の大学ノートを見せていただきました。

○地域医療についてひとこと。

<中谷一彌先生より>

これからの時代は待っているだけでなく、地域に出て地域に根差した医療の展開が必要です。

<中谷玉樹先生より>

消化器外科、緩和ケアを専門としています。患者さん一人、一人のオーダーメイドの治療ができるようにしていきたい。大きい病院ではできないことを、こういうクリニックでやって行きたいと思っています。

【取材後記】

これからは地域に根差した医療が大切なことを中谷一彌先生、玉樹先生ともに言われ、同じ方向を向いて頑張っておられることがよくわかりました。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様にあわれ信頼される病院をめざします

腫瘍センター開設しました



東病棟6階に開設した腫瘍センター



医師による病状説明

緩和ケア認定看護師によるリンパマッサージ



がん専門看護師による説明



認定薬剤師による説明



患者さんのリハビリ風景

県立広島病院からのお知らせ

緩和ケア 看護師研修 基礎コース

- 開催日 平成27年6月30日(火)・7月1日(水)の2日間
- 時間 9:00~16:30
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- 申込期間 平成27年5月26日(火)~6月9日(火) 必着
- 参加費 5,000円(資料代)
- 対象 次の要件をすべて満たす者
 - ①県内の医療機関等に勤務する保健師、助産師、看護師、准看護師
 - ②緩和ケアに携わっている者、または近い将来緩和ケアに携わりたいと希望する臨床経験年数3年以上の者
 - ③全課程(2日間)をすべて出席できる者

緩和ケア 介護支援専門員・地域連携職種研修 基礎コース

- 開催日 第1回 平成27年7月17日(金)・7月22日(水)の2日間
第2回 平成27年7月31日(金)・8月5日(水)の2日間
- 時間 9:00~16:30
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- 申込期間 第1回 平成27年6月12日(金)~6月26日(金) 必着
第2回 平成27年6月26日(金)~7月10日(金) 必着
- 参加費 5,000円(資料代)
- 対象 次の①、②のいずれかと③の要件を満たす者
 - ①居宅介護支援事業所・介護保険施設等に勤務する介護支援専門員
 - ②医療・福祉機関・介護保険施設等で地域連携・相談業務を行っている者
 - ③全課程(2日間)をすべて出席できる者

問合せ先

広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア支援室
※詳細は『広島がんネット』ホームページでご確認ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/>

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他2,690円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。
※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承下さい。

当院では、平成18年7月から臨床腫瘍科外来(通院化学療法室)を南病棟3階に開設しており、通院しながら安全で安心な薬物療法(主に抗がん剤治療)を受けていただくことができます。

この度、『緩和ケア病棟』、『臨床腫瘍科外来(通院化学療法室)』に次いで、臨床腫瘍科や放射線治療科等の病床があった東病棟6階を『腫瘍センター』として、新たに開設しました。診療科の枠を超えたがん医療を提供する病棟として、がん医療の質を向上していきます。

がん医療に関する専門医・歯科医、専門・認定看護師、専門・認定薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、心理療法士、ソーシャルワーカーなど、がん領域の様々な専門家や緩和ケアチーム、がんリハビリテーションチーム、口腔ケアチーム、栄養サポートチームなどが腫瘍センターで結集して、患者さんやご家族に寄り添い、がん治療のみならず、がん患者さんが抱えるあらゆる問題に対応します。また在宅での療養生活を支援するために、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ケアマネージャー等と退院時カンファレンスを実施し、在宅療養の質の向上を図ります。

がん患者さんのみならず、そのご家族の期待に応えられるようながん医療が提供できますようにスタッフ一同頑張ります。



臨床腫瘍科 主任部長 篠崎 勝則



腫瘍センター看護師長 大山 紀美江

最新型

血管造影CT複合型装置を導入



高画質、低被ばくの血管造影CT複合型装置 (IVR-CT)

5月に更新した血管造影CT複合型装置(IVR-CT)は、血管撮影装置“ArtisQ TA”とCT装置“SOMATOM Definition AS 64”が組み合わされた、日本国内では初号機となる最新型の装置になります。

IVR(Interventional Radiology)とは放射線診断技術を応用して病気の診断・治療を行うことを言い、例えば、肝臓などの病気の治療の際にはCT検査で病気を特定し、血管撮影装置で画像を見ながら薬剤を注入して治療を行います。両装置を組み合わせることで、患者さんが移動することなく、診断と治療を行うことが可能となります。

この最新型の装置では、従来よりも高画質・低被ばくでの検査が可能であり、病変や治療に使われる器具を鮮明に映し出すことができ、造影剤の使用量を減らし、腎臓への負担を軽減することができます。

血管や臓器の三次元画像もより鮮明になり、病変への経路を表示するナビゲーションも使用可能です。これらにより、検査時間を短縮でき、更に安全・高度な治療を行うことができます。

県病の星

がん化学療法看護認定看護師



奈須看護師と木下看護師

がん化学療法看護認定看護師は、化学療法を受ける患者さんへの看護の実践、院内スタッフの指導、スタッフからの相談を受けるという役割を担っています。

現在、臨床腫瘍科外来に1名、入院病棟に1名が在籍し、化学療法を受ける患者さんが安全、確実な治療を安心して受けられるよう医師、薬剤師などと一緒にチーム医療を行っています。残念ながら、化学療法を受けるとほとんどの場合、何らかの副作用が現れます。

患者さんが副作用への対処に困った時には、看護師が積極的に電話サポートを行っています。患者さんからの電話相談は随時受け、治療導入時には数日後に看護師から電話をかけ、患者さん個々に合った方法を一緒に考えています。

臨床腫瘍科の患者さんが多く入院される腫瘍センター(東6病棟)では、毎週1回、臨床腫瘍科・緩和ケア科の医師、病棟・外来の看護師、栄養サポートチーム、緩和ケアチームのメンバーなどが集まり、患者さんへの医療がより良いものになるようカンファレンスを行っています。これからも患者さんに満足していただけるよう、医師、薬剤師などと一緒にめざしていきます。



臨床腫瘍科にて

外科医の独り言 no.45

ー 待ち時間 ー

大病院の多くは診察待ち時間が長いという問題を抱えています。予約制と言っても時間通りに呼ばれないことも多く、ましてや予約がなければ相当待たされます。待たされて喜ぶ患者さんはいません。もちろん意図的に待たせてやろうと思っている医師もいません。多くの医師は横に積み重なっていくカルテ(診察ファイル)に焦りを憶えながら診察しています。宝くじを買って当選発表までの待つ時間は楽しい待ち時間かもしれませんが、少なくとも医療現場では楽しい待ち時間はありません。待つのがつらいと感じる理由は様々ですが、その大きな要因は「いつまで待つかわからない」という不確かさのようです。なかなか手に入らないチケットを求めて発売1週間前から並んで待つ人たちが沢山います。この人達は1週間待った後に確実にチケットを手に入れることができるという前提があるから待てるのです。待った後に必ず楽しい事、良いことが期待できるのであれば待つことも報われるでしょう。病気で受診している患者さんに良い結果ばかりということはありません。長年苦しんできた痛みが診察の後すっかり楽になった、てっきりがんだと思っていたのが検査の結果がんでなかった、これは良い結果なので長時間待たされた不満を言う患者さんは少ないかもしれませんが、待たずに良い結果が得られるに越したことはありません。ましてや長時間待たされた挙句悪い結果を聞かされたのでは患者さんもたまりません。

病院によって診察待ち時間が長くなる要因は多少違います。さて県病院ではどうでしょう? いろいろ調べた結果、様々な要因が積み重なって待ち時間が長くなっていました。それこそ一筋縄ではいきません。要因の多くは病院側の問題であり、それぞれの要因に関連性もあり、1つ

ずつ改善していけば必ず解決できると確信しています。この4月からA,B受付の受け付け方法、採血の順番のルールを変えました。これまでは予約時間にかかわらず早く来れば早く採血してもらって、結果も早く出るので早く診てもらえるというシステムでした。そのために予約時間通りに来院した患者さんの採血や診察が遅れるという弊害がありました。これを来院時間にかかわらず予約時間順に採血する方式に変えたため、今まで早く来られていた患者さんには待ってもらうことになり、「今までは良かったのになぜ変えたのだ」とお叱りを受けました。しかしこのシステムは予約時間通りに来院してもらえば必ず待ち時間の短縮につながると確信を持って実行しました。今後、血液検査の結果が出るまでの時間短縮も図ります。これも必ず待ち時間の短縮に繋がると思います。そのあと様々な改善策を打ち出して実行していきますのでもう少し待ってください。

私は待つことも待たせることも嫌いです。お昼時美味しいラーメン屋に長蛇の列ができています。その最後尾に並んで待てば売り切れにならない限り確実に美味しいラーメンが食べられます。しかしその隣に待たずに入れるラーメン屋があれば私は迷わずその店に入って普通のラーメンを食べます。ひょっとしたらその店は客を待たせない工夫をした美味しいラーメン屋かもしれません。県病院も待たずに良い医療が提供できるように改善していこうと思っています。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本 敏行(いたもと としゆき)

院内七夕コンサートのお知らせ

当院では、多くの患者さんやご家族の皆さんに安らぎと潤いのある病院として愛され、ご信頼をいただけるよう、また、皆さんと一緒に楽しく、心温まるひとときを過ごさせていただきたいと考え、毎年、七夕とクリスマスに、プロテウスアンサンブルの方々に様々な趣向による素晴らしい演奏を御披露いただいています。患者さん以外の方にも開放していますので、是非お立ち寄りください。



昨年のコンサートの様子

7月7日(火) 15:00~
中央棟1階中央ホール